

(2) 情報教育研究会 (ICT の活用・中学校)

会 長 小野川 憲(中村西中)

副会長 兼松 尚子(中村西中)

事務局 治面地 恭平(中村中)

1. 研究主題「プログラミング的思考を身に付け各教科で生かせる知識・技能の習得」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 5月9日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容:役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校 (理科室)	36名参加
8月4日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容:Chromebookを用いた効果的な思考ツールの活用 講師:ライフイズテック	中村西中学校	31名参加

3. 今年度の取り組み

今年度の研修は会員の先生方から頂いた意見を集約し、プログラミング教育について研究を進めていくこととなった。そこで、ライフイズテックの方々にお話し、リモートで研修を行った。研修では、ホームページを実際に作成するなど簡単なプログラミングの操作方法を体験しながら進めた。

昨年度に比べて、より多くの先生が授業でChromebookを活用しようと意識している一方で、プログラミングの難しさを改めて実感した。研修では、講師の方々が丁寧に教えてくれる環境があり、楽しさを感じながら学びを深めることができたが、いざ教育への活用を考えるとまだまだ技術や知識が不足しているように感じる。そのためより、基礎的なプログラミング教育の研修を通して、少しずつ力をつけていきたい。そのための一歩となる、有意義な研修であった。

4. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・夏季研修会において、今後必要となるプログラミング教育について学ぶことができたことは良かった。
- ・研修のあと、総合的な学習の時間などで授業実践を行う場面があった。
- ・ICT機器の重要性について改めて確認することができ、授業での活用頻度を多くしたり、活用場面の工夫を意識したりするようになった。

〈課題〉

- ・プログラミングにおいて指導を行うための知識や技術の差が大きい。
- ・ICT機器の使い方について、学校全体または各教科指導でルールの徹底が重要である。